



5月のえんだよ



新しいクラスでの生活が始まって、早くも1ヶ月が経ちました。はじめはどこか不安の表情が見えた子どもたちも、今では新しい担任・お部屋にも慣れ、お友達と楽しくすごしています。

あたりではにわか木々の緑が目立ちはじめました。動くとすぐに汗ばむような日もありますが、今の時季は子どもたちができるだけ元気に外で遊べるような工夫をしています。健康のためには、外で体を動かして遊ぶことが何より大切です。ご家庭では、なかなか外で遊べなくなっている現在、園で思いきり体を動かせる環境を整えていこうとしています。

春の親子遠足

日時：5月10日(土) 午前 10:00 集合
場所：昭和記念公園

詳しい内容は後日しおりを配布致します。

5月の予定

- 1日(木) 子どもの日会
- 10日(土) 親子遠足
- 13日(火) おやつ試食デー
- 14日(水) 避難訓練
- 16日(金) 調理保育(らいおん)
- 19~23日 身体測定の日
- 19~23日 職場体験(羽2中・2年)
- 20日(火) グリーン東京訪問(らいおん)
- 21日(水) 幼児体育指導(ぱんだ・くま・らいおん)
- 22日(木) お誕生日会
- 23日(金) 歯科検診
- 27日(火) 職員研修日



昭和記念公園

昭和記念公園は、こどもから大人まで幅広く楽しむことができる国営公園です。特に6月1日までは、開園25周年記念イベントの第一弾として、「開園25周年記念フラワーフェスティバル2008」が開催されています。桜・ナノハナ・チューリップ・ポピーなどが、次々とリレーしながら開花していく様子を楽しむことができます。

こどもたちに大人気なのは、「こどもの森」。ワクワク広場・月の丘・森のとりで・地底の泉・虹のハンモック・森の家・石の谷・霧の森・太陽のピラミッド・雲の海・ドラゴンの砂山と、1日ではあそびきれない程たくさん施設があります。

5月5日(祝)こどもの日は、小学生及び中学生の入園料が無料となります。



開園時間

期間	時間
3月1日~10月31日	9:30~17:00
11月1日~2月末日	9:30~16:30

※開園時間はプール開設期間・催し物等によって変更する場合があります。

休園日

年末年始(12月31日・1月1日)及び2月の第4月曜日とその翌日

※昭和天皇記念館の休館日は月曜日(月曜日が休日の場合は直後の平日)と年末年始(12月31日・1月1日)及び2月の第4月曜日とその翌日

入園料

	一般
大人	400円
小人(小・中学生)	80円

※小学生未満のお子様は無料です。

保育園を支えていただいている方々

保育園は職員の他にも、多くの方々に支えられて運営しています。



嘱託医の先生

小児科 道佛 雅克先生(わかくさ医院院長)
歯科 井上 雄温先生(井上歯科医院院長)
健診の他、日々の様々な病気・ケガについても、看護師を通して相談にのっていただいています。

体育指導の先生

長屋 あゆみ先生(日本経営教育研究所)
子どもたちから大人気の長屋先生です。毎月の幼児体育指導の他、職員を対象とした体育指導研修も行っていただいています。

臨床心理士の先生

澤井 晴乃先生(臨床心理士)
臨床心理士の観点から、日々の保育へのアドバイスをいただいています。また、職員を対象とした発達心理に関わる研修も行っていただいています。

カメラマン

後藤 巖さん(ゴトウ写真工房)
こどもの自然な笑顔を撮影するのがとても上手なプロカメラマンです。事務所は練馬区にあり、いつも行事のたびに車でお越しいただいています。



端午の節句(子どもの日)



端午の節句とは5月5日に、こいのぼり・鎧兜・菖蒲を飾ったり、菖蒲湯に入り柏餅やちまきを食べ、男の子の厄よけと成長を祝う行事です。

子どもの日は、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」国民の祝日です。子どもの成長を祝う「端午の節句」が5月5日だったことから制定されました。

★端午の節句の由来…古来より中国では、物忌みの月(5月)には厄払いの行事が盛んに行われていました。端午というのは、月の端(はじめ)の午(うま)の日という意味。午(ご)と五(ご)の音が同じなので、毎月5日を指すようになり、やがて5月5日のことになったとも伝えられています。端午の日に、邪気をはらう力があるといわれる「菖蒲」をヨモギとともに軒につるしたり、菖蒲湯に入ったりしました。「菖蒲」が、武運を大切に「尚武(しょうぶ)」と結びつき、男の子の厄よけと成長祈願になりました。

★なぜ男の子のお祝い?…5月5日は、徳川幕府の重要な式日に定められ、大名や旗本が、式服で江戸城に参り、将軍にお祝いを奉じるようになりました。そして、武家に男の子が生まれると、門前に馬印(うましるし)や幟(のぼり)を立てて男児誕生を衆々に知らせ、お祝いました。この行事が、薬草を摘んで邪気をはらうという端午の行事と結びつき、男の子の誕生の祝いへと結びついていったのだそうです。

恒川先生が4月30日をもって退職されます

これまで保育補助として働いていただいた恒川先生が、4月いっぱい退職されます。5月からは、児童福祉施設で正規職員として活躍されます。こどもたちからとても親しまれていた先生だけに非常に残念ですが、新しい職場での活躍を祈っています。

新スタッフ紹介(保育補助) 久保 朋美 今村 さやか

春でも車内で熱中症に…車の中に子ども残さないで!!

先月の4月14日鹿児島県で、1歳7カ月の男の子が車中で取り残され、熱中症で亡くなるという悲しい事件がまた起こりました。

春は夏に比べて涼しく、「熱中症が起きるのは夏」という勝手な思い込みから、上記のような事件が起きてしまいます。

日本自動車連盟(JAF)は、気温が20度前後でも、晴天時に窓を閉め切った車内では熱中症になる恐れがあるとして、「わずかな時間でも、絶対に車内に子どもを残さないで」と注意を呼び掛けています。

JAFでは昨年4月、窓を閉め切った車内での温度変化をテストし、その結果、最高外気温は23.3度でしたが、車内室温は最高48.7度、ダッシュボードは同70.8度にまで達したそうです。

4枚の窓すべてを4センチ開けた車では、

全閉した車より低いものの、車内温度は最高38.9度まで上昇。「直射日光が当たるダッシュボードが熱源となるため、車内温度の上昇に、車種や外装色、外気温はあまり影響ない」としています。

JAF広報部は「外は涼しいから大丈夫」という思い込みが、幼い子どもの熱中症事故を引き起こす原因」と指摘し、「春でも、車内気温は真夏と同じぐらい上昇することを知ってほしい」と訴えています。

外は23℃でも…



車内は49℃!!

